

## “今週の国際宇宙ステーション（ISS）”

☆最初のISS構成要素打上げから1684日経過しました  
 ☆第7次長期滞在クルーのISS滞在は64日経過しました

## ☆ISS動向

ルー宇宙飛行士は、引き続き微小重力研究グローブボックス（MSG）を使用して、コロイド溶液中の常磁性体の集合体の構造研究（InSpace）を行っています。

マレンチェンコ宇宙飛行士は、プログレス補給船(11P)からの荷下ろしを行うと共に、廃棄品をズヴェズダ後部に接続しているプログレス補給船（10P）に積み込む作業を行いました。プログレス補給船（10P）は10月にISSから切り離し大気圏に突入させ燃え尽きさせる予定です。

また、広報イベントの一環として、フロリダ沖の水深約20mにある研究室“アクエリアス”にいるウィットソン宇宙飛行士（第5次長期滞在クルー：ISSサイエンスオフィサー）はじめ、6人のNEEMO(NASA Extreme Environment Mission Operations) ミッション参加潜水作業員と交信を行いました。



インタビューに答える第7次長期滞在クルー（左：ルー宇宙飛行士、右：マレンチェンコ宇宙飛行士）

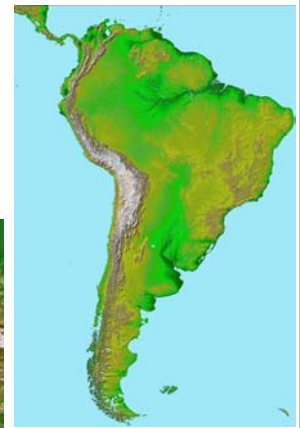
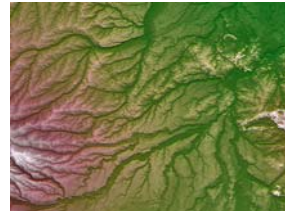
## “トピック”

## ☆STS-99ミッションでのSRTM画像公開

NASAは、2000年2月に毛利宇宙飛行士が搭乗したスペースシャトルミッションSTS-99によって取得されたデータから作成した南アメリカの地形図を公開しました。

STS-99は合成開口レーダアンテナにより地表を走査し、地球の立体地形図を作成するSRTM(Shuttle Radar Topography Mission)と呼ばれるミッションでした。

スペースシャトルによって取得された膨大なデータを処理することで詳細な地形図が作成できます。データの処理は現在も続いており、地形図は作成され次第公開されています。公開されたデータは様々な科学的な調査及び商用目的に使われます。



公開された南アメリカの地形図

詳しくは下記のNASAによる発表をご覧ください。

[http://www.nasa.gov/home/hqnews/2003/jun/HQ\\_03204\\_S\\_Amer\\_Space\\_Radar.html](http://www.nasa.gov/home/hqnews/2003/jun/HQ_03204_S_Amer_Space_Radar.html)

また、STS-99については下記をご覧ください。

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/shuttle/flight/sts99/index.html>

## ☆ISSで行われている実験紹介

ISSには2000年11月から宇宙飛行士が滞在し、様々な科学実験が行われています。

第1次から第6次長期滞在期間までに行われた主に米国の実験について簡単に紹介したページを公開しましたので、是非ご覧ください。

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/utiliz/issexp/index.html>



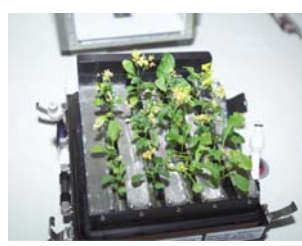
材料結晶成長実験



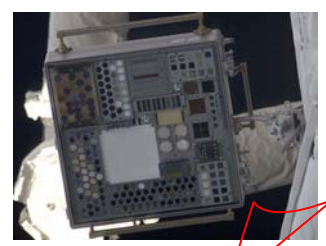
地球観測



放射線吸収線量測定



植物栽培



材料曝露

2003年10月1日から宇宙開発事業団は独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)に移行します。

問い合わせ先: 宇宙開発事業団 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://jem.tksc.nasda.go.jp/> Eメール [kibokoho@nasda.go.jp](mailto:kibokoho@nasda.go.jp)

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。